

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然環境の豊かな園庭で子どもたちがのびのび過ごしています
	内容	広い園庭には四季の実のなる木がたくさんあります。春はさくらんぼ、ビワ、アンズ、初夏は梅、秋は柿、ぶどう、ざくろなどがなります。子どもたちは園でいたり、家庭に持ち帰って家族で楽しんだりしています。また、園庭の隅には池を作りビオトープにしています。そこには、あめんぼ、とんぼが来たり、おたまじゃくしがいてかえるになるようすが観察できます。さらに築山や園庭遊具があり、子どもたちは走り回ったりして楽しんでいきます。このように、体力作りとともに四季を肌で感じられる環境が整っています。
2	タイトル	園内研究会で一つのテーマを発展させて継続して取り組んでいます
	内容	平成24年度の園内研究は「異年齢のかかわりを深める」というテーマで、副題は、美しい言葉を育み、豊かな感性を育てる、ということを進めてきました。園内研究に取り組む園の姿勢として、まずは「育てたい子どもの姿」を追求することにあります。そして具体的な取組として、「いろいろな遊び」、「体験活動の重視」、「異年齢とのかかわり」、「言葉の美しさ」にふれるなどを柱として研究してきました。平成25年度はその研究成果を踏まえ、さらに発展させて「ふれあい」という人とのかかわりまで広げたテーマで研究を進めています。
3	タイトル	子どもの命を最優先に考え、安全対策に取り組んでいます
	内容	園長は、まずは子どもの命を最優先させることを主眼に置き、保育を充実させることが大事であると考えています。従って、病気やけが、災害、不審者対策など、園内におけるさまざまな安全対策を実施しています。具体的には、園内各所の定期的な安全チェック、ヒヤリハット・アクシデントレポート、それに関連する再発防止の事故報告書、月別避難訓練、防犯対策、感染症対策など、分野別に対策を検討しています。さらに、警察署や消防署などの関係機関との連携も深めています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	マニュアル・資料・フローチャートに分類、整理して整備されることを期待します
	内容	園には安全に関する種々の資料やマニュアル、個人情報保護規程、感染症の情報など、いろいろな情報があり、それらがいっしょになっているのが現状です。そのため、マニュアルを職員全員が迅速に取り出し、適切に処理するにはやや課題が見られます。この機会に、必要なマニュアルは何を揃えたら良いか、また、図式化した手順（フローチャート）はどのようなものがあるか、といったことを職員会議で検討し、整備されてはいかがでしょうか。また、役所からの情報や研修で得た資料などは区別して収集しておく、なお良いでしょう。
2	タイトル	自園の中・長期計画の作成を期待します
	内容	園は開設4年目を迎えています。初年度は人数の確保を目指し、安定してからは園庭の遊具の取り換えやビオトープの充実といった計画に取り組んできました。ただ、各年の単年度計画はありますが、書式による明確な中・長期計画についてはやや課題が残ります。中・長期計画は、園舎の改修計画や備品の充実といったハード面のほか研修計画や人材の補充などのソフト面があり、それらの方向性について書面にて職員全員が周知し、計画にそって進んでいくことが肝要です。次年度からは、中・長期計画のもとに活動していけることを期待します。
3	タイトル	長時間保育、短時間保育、それぞれの保護者が互いに理解を深める取組の継続に期待します
	内容	園としては、短時間保育を利用する子ども、長時間保育を利用する子ども、どちらも公平、平等に考えて保育をしていることを入園説明会や保護者懇談会などでしっかり説明してきています。しかしながら、利用者アンケートを見ますと、長時間保育利用の保護者からは短時間保育利用の子ども優先の保育・教育をしている、との声が寄せられ、短時間保育利用の保護者からは長時間保育優先との意見があがっています。こうした誤解や行き違いは、繰り返し伝えていくことが大切です。今後も折に触れて話す機会を設け、誤解を解いていけることを期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-5-3-5	伝え合う喜びを味わったり、言葉に対する感覚が養われたりするように配慮している
タイトル①	豊かな感性を育てる一環として、毎朝、詩を暗唱しています	
内容①	園長は、子どもたちが豊かな感性を育んでほしいと願っています。その一環として朝の会では3～5歳児が「今月の詩」を毎日暗唱しています。当初は、園長が詩を選んで実施してきましたが、次年度からは職員たちが話し合っ て自主的に選んでいます。今では、職員たちは子どもたちがいろいろな詩に触れることによって、普段使わない言葉に出会うことで、その言葉の持つイメージが湧いてきたり、イメージが豊かに広がってきたりすることが大切であると考えています。毎朝の暗唱とともに、保育室にはその詩の言葉が掲示されています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-3-3	さまざまな活動や体験をするのに適切な環境を整えている
タイトル②	体験を通して、遊びから学習の芽が出る活動を実践しています	
内容②	子どもたちにとって、いろいろな体験をすることは大事なことです。そこで当園では、畑での野菜作りや遠足での地引網、その地引網で取った生の魚に触れる体験、お泊り保育、ファミリーデー（家の人といっしょに遠足、おじいさん、おばあさんとの昔遊びなど）、異年齢交流、ピオトープでの虫の観察など、さまざまな体験活動を重ねています。園としては、このような体験が大事であり、それらが「生きる力」につながっていくと考えて、多彩な活動を実施しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		